



株式会社
マテリアルスポーツ
代表取締役社長
藤本 誠さん



◀店内には、堀島行真選手の直筆のサイン入りポスター(その他にもアスリートのサインが並んでいます)



◀株式会社マテリアルスポーツ本社
(守口市桜町1-30)



守口から 世界へ



◀堀島選手がもっていたもの
(2022北京オリンピックマスコットキャラクタービンドウン)

世界を制すスキー板
守口市には世界に誇れるスポーツメーカー、株式会社マテリアルスポーツがあります。そちらの代表取締役社長 藤本誠さん。上村愛子さんを勝たせるためにというのがきっかけでスキー板を作り始めました。
作るからにはナンバーワンのスキー板を目指す。と藤本さんの試行錯誤は続きました。
スキー板は着地の衝撃などで折れることがあります。そんな中、最適な「しなり」と「強さ」がありアレンジもしやすい木材に注目したといいます。
また、板の縁にあるエッジに切れ目を入れる工夫も施しました。これによってエッジのしなやかさが増し、モーグルのコースにある「こぶ」などへの衝撃をうまく吸収できるようにになりました。
こうして2000年に販売したID oneは、今では世界トップ選手の約8割が使用しています。
北京オリンピックではモーグル男子・女子共に金・銀・銅を獲得した選手全員がID oneを愛用しています。
世界のモーグルを支える藤本さんが率いるマテリアルスポーツ。
守口から今後も世界に羽ばたくID oneの企画コーディネートは続きます。

Dream come true with 子どもたちの励みに ID one ski

“願いは叶う、藤本社長の夢”

“ID oneを履いて夢をつかんでほしい”と選手に自分自身の夢を重ねます。

「現在63歳、いつかこの業界を離れることも考えた時、ID oneを国内だけでなく、世界のブランドに育てておきたい。日本製のいいブランドということは広まり、北米でも人気が出てきているが、将来ID oneはアメリカのブランドと思われるようになれば、大したもんだな…」と藤本さんの思いがこぼれました。

「ID oneを使用している日本・海外の選手が勝つことで、競技スキーが盛り上がり、今まで以上にID oneが世界に広がってほしい。また、選手たちと子どもたちと接する場を作ること、子どもたち自身もメダルを取りたい、と夢を持って、トップ選手になっていくことを願っている」と藤本さんの活動の意味がここにありました。



私がウォルターに関西弁を教えました！

ウォルター!! 笑かして~!!

なんでやねん!!

ID oneの魅力は、社長の人格にひき付けられ、その社長が作ったものだから!

私モデルがあるんですよ。

いろんなアドバイスをもらえる、頼れる社長!

自分にあったものを選べるのが魅力!



ウォルター・ウォールバーグ選手 (スウェーデン)
・北京オリンピック 男子モーグル 金メダル
・FISワールドカップ年間総合3位
[MR-SG182使用]



ミカエル・キングスベリ選手 (カナダ)
・北京オリンピック 男子モーグル銀メダル
・FISワールドカップ年間総合1位
[MR-CE172使用]



堀島行真選手 (日本)
・北京オリンピック 男子モーグル銅メダル
・FISワールドカップ年間総合2位
[MR-SG177使用]



川村あんり選手 (日本)
・北京オリンピック 女子モーグル5位
[MR-D166使用]

ID one [アイディーワン]

「アイディーワン」の名前の由来は「アイデンティティ (ID)」と「ナンバーワン、オンリーワン」の造語で、藤本社長が「梵字」をイメージした「ブランドロゴ」が付いている。

日本で生まれ、日本の工場日本の職人と日本のスキーを愛する人 (藤本さん) により心を込めて創った日本製のスキー。

※古代インド語を表す文字。日本には仏教と共に伝わる。

ジュニア選手から世界のトップ選手まで、必要とするスキーをレベルや好みに合わせたさまざまな組み合わせのスキーを提案。

また、トップ選手と同じモデルが市販でも手に入るのが魅力。

